

フューチャーフラワー基金へのご支援、ありがとうございます。同封の里子の写真入りカード、そして子供レポートはご確認いただけましたでしょうか？突然来た日本からの支援に、今頃その子供は大喜びで学校へ通っていることでしょう。この報告書は里親の皆様にご理解いただきたく、このプロジェクトに関する交流倶楽部の活動の詳細と、私共の「顔の見える支援」へのこだわりについて書かせていただきました。本来ならば、会場を借りて報告会を開催すべきところですが、諸事情のため書面でのご報告とさせていただきますこと、ご了承ください。

## フューチャーフラワー基金～第4期～ ネパール出張報告

フューチャーフラワー基金第4期：  
2011年10月から1年の学費支援

参加人数：

日本人支援者（里親）11名

ネパール奨学生（里子）20名

出張期間：2011年9月28日～2011年10月18日  
内マイディ村には1週間滞在

出張者：日本・ネパール文化交流倶楽部 代表  
サンジブ・アリアル

現地同行者：カルパナ・アリアル（主婦）、サル  
ミラ・アリアル（学生）

出張目的：

1. フューチャーフラワー基金 第4期（新）  
里子候補者面接と選出
2. フューチャーフラワー基金第2期の里子へ  
継続（2年目）の支援と手紙の受け渡し
3. 第1期、2期、3期の子供たちの状況（学校  
に通っているかどうか）を確認
4. 交流倶楽部新プロジェクト“マイディ村交  
流の家（仮）”の検討
5. 村人や現地の他機関との交流（認知、協力  
関係構築）
6. 現地スタッフとの理念・目的・仕事内容の  
確認、今後の活動の検討

### 1 日本・ネパール文化交流倶楽部 について

（ア）理念：“Give and Give” = ギブ・アンド・  
ギブ

「ギブ・アンド・ギブ」とはプラスマイナスゼロ  
の考え方を断ち切り、もらうことより与えること  
により人生最大の喜び、楽しみを得られるという  
考え方。サンジブ・アリアルが16歳のとき家出  
をして以来、ネパールと日本での生活の中で実感  
した考えだそう。ネパールも近代化に伴い、  
自己中心的な考え方が広まりつつあるという危  
機感があり、日本からそういった思想を自国の若  
者にも感じてもらえればとの願いも含まれてい  
ます。

（イ）目的：

目的①【交流】日本国内で日ごろからネパー  
ル人留学生を交えた交流イベントやワークシ  
ョップを開きます。ネパール人学生との交流  
に興味のある倶楽部メンバーと知り合うこと  
により、彼らが日本での生活に早く慣れる手  
助けをします。メンバーにとってはネパール  
訪問や異国文化に触れる際に、よりスムーズ  
に現地人と交流できるようになり、視野を広  
げ自分の位置を再確認することを、「楽しいプ  
ロセス」としてアイデアを提供します。

目的②【支援】『フューチャーフラワー基金』  
や『交流ツアー』で現地の様子を体験し、伝

えることにより、「支援」をより身近に、自然に、無理せず、自分の出来る範囲で楽しめるものにする架け橋となります。

目的③【理解】 個々人の交流やツアーグループとしての交流、そして遠距離ではあるが顔の見える支援を通して、お互いの諸問題に興味関心を持つ機会を作ります。そして問題の裏にある、文化や習慣についても公平な知識を持てるような情報提供や関わり方を、メンバーと一緒に考えます。



## 2 フューチャーフラワー基金について

フューチャーフラワー基金は、日本・ネパール文化交流倶楽部の目的の一つである【支援】を通じた、個人レベルの国際交流を目的とした事業です。

今まで多くの団体や会社などがネパールに学校を建設していますが、本当の問題は学校に行けない子供たちが未だたくさんいること。建物は建ててもその後の運営や、様々な事情で子供たちが集まらなると、教育の質も識字率も向上しません。親もほとんど教育を受けてない家庭が大半を占めるダディン郡の農村を中心に、学校に行けない小学生から中学生の子供たちの学費1年分を、日本人の個人が一人ずつ支援します。交流倶楽部は年に2回現地の村を訪れ、子供たちの就学状況を確認します。出来るだけ“顔の見える支援”とな

るよう、子供たちの写真や、お手紙などの受け渡し、ネパールツアー(原則年2回)を企画し里親が現地視察できる機会を提供します。

ア) 特徴:

①ひとり対ひとりの支援: だれがどういう家庭の子供を支援しているか分かるように、面接時の子供レポート、里親カード、里子カードをそれぞれに持たせる。

②本当に困っている子を優先的に: 大きな団体の支援なども届かず、ネパール社会からも光を当てられない、社会的(カースト、家庭環境)や経済的にもっとも底辺の子供を支援する為、現地で念入りに情報収集。そのためにあらゆる情報を持っている村人にプロジェクトについて説明し理解してもらい、必要があれば実際スタッフが自宅に足を運ぶこともあります。

\* 目的は交流のきっかけ。無理せず、めげずに、楽しい支援です。

なぜ?

誰からの目も届かない人たちがいるから。教育を受けた自分と、受けなかった人との将来的に必ず出る”差”が見えてしまったから。

どうやって?

皆さんのお力を借りながら、楽しませ、楽しみながら。

いつまで?

皆さんとの信頼が続くまで。

どうしても学校に行けない子どもがいる限り。

サンジブ代表



### イ) プロジェクトのこれまでの歩み :

- 2009年 1月 フューチャーフラワー基金設立
- 〃 年 3月 スタッフが初マイディ村訪問
- 〃 年 4月 1組の支援開始
- 2010年 4月 新たに15組開始(第一期)
- 〃 年 9月 交流ツアーにて6組の里子と里親たちがピクニックで交流
- 〃 年 10月 15組が加わる(第二期)
- 2011年 2月 スタッフ鈴木が面接&交流の為、マイディ村出張
- 〃 年 4月 新たに10組の支援開始(第三期)
- 〃 年 9月 代表サンジブが面接の為、ネパール出張
- 〃 年 10月 新たに20組の支援開始(今期)

### ウ) ダディン群マイディ村について



首都カトマンドウから国道沿い70kmにあり、一つの村ごとに多民族が共生している社会です。他の地域の農村と同様に、伝統的なカースト制により職業が分かれており、鍛冶屋、裁縫屋、神主、教師、等等…全部そろってひとつのネパール社会を構成しています。

現代ではカースト制が廃止され、それぞれ自給自足の農業を営んでいます。中にはもともと土地が狭く、伝統的な職業では生活が成り立たない為、小作農や日雇い労働者として現金を稼いで生活しなければいけない家庭もあります。

マイディ村へは乾季はカトマンドウから定期バスがありますが、雨季は道がぬかるんで車が通れなくなるので、麓のバス停から4~5時間(ネパール人の足では3時間ほど)歩かなければいけません。

マイディの魅力はなんといってもその絶景です。谷底へと延々と続く棚田やヒマラヤ山脈の雄大な眺め。朝は雲海が薄もやの谷に浮かび上がり、昼の太陽が村の緑と輝かせ、夕方には夕日が周りの山々をオレンジ色に染め、夜空には満天の星が瞬くのを見ることができます。

カトマンドウから比べても貧しく遅れてはいませんが、自然豊かで素朴な人々のたくましい命の営みを目の前にし、子供たちの生活を垣間見てもらえるためにも、今後交流ツアーでダディン郡訪問が出来るよう準備を進めております。

### エ) 子供との面接・選出の過程、気を付けること

- ① 面接者自身が村の学校に行けない子供たちをかわいそうと思わない：かわいそうと思いはじめたらキリがないので。
- ② 面接ではできるだけ情報を得るが、ありのままのコミュニケーションで：親も子供も人生初めての「自分のことを訊かれるという経験」で、皆恥じらい言葉がなかなか出てこないが、無理に話させようとしないう心がける。その為、服装、家族構成、近所の村人への聞き込みからも状況を把握する必要がある。
- ③ 期待させない：噂を聞きつけた様々なレベルの子供の親たちが一度に頼みに来るので、面接するだけで支援決定ではないと説明しなければいけない。決まった数のうちで、より底辺の家庭の子供を優先に選ぶ為、その場では決めない。子供自身の教育に対する意欲も重視しつつ、現地スタッフと念入りにミーティングする。時間を置いてから再度決定した子供に里親のカードと支援金1年分を手渡す。

比較!!

## カトマンドゥ

## マイディ村

水

屋上のタンクから各部屋へ。洗濯は屋上で。シャワールームがある。

物資

- ・ 徒歩3分ほどで地元の商店、市場など点在
- ・ 好きなものは何でも手に入る
- ・ 靴の修理人や野菜の行商などが歩いて来る
- ・ プライバシーの尊重。セキュリティーの信頼性が高い。

その他

- ・ ガスコンロのある台所。
- ・ ベッドや布団が豊富にある。
- ・ ネットカフェも点在
- ・ 携帯電話、新聞、テレビ

水

水汲みは山道徒歩30分の水場（湧水を利用）。一度に15~20kgの水を背負って運ぶ。

物資

- ・ 基本は自給自足
- ・ 畑、家畜、村人の手作り品で得られるモノのみ。
- ・ 村で作れないもの（サンダルや薬、懐中電灯など）は1時間以上歩いたところの田舎町で調達。

その他

- ・ 薪で煮炊き
- ・ 移動は基本的に徒歩
- ・ 週に2,3回の屋外での水浴び
- ・ 肉は理由がない限り食べられない
- ・ 携帯は最近持っている人もいる
- ・ 電気は明かりやラジオとしてののみ利用。情報は基本、口コミのみ。

### オ) 対象の子供たちの状況と教育の必要性

子供たちのほとんどの親は自身も教育受けられなかったが、出来れば子供には受けさせたいと考えています。しかし女の子はお嫁に行く為のしつけの方を重視されやすく、男の子は家に残る可能性が高いのでより教育のチャンスあります。町や諸外国に出稼ぎに行くのは、地元の村ではほとんど仕事が無い為で、出稼ぎ後も何年間も仕送りなしの生活を送らなければいけない家庭も多くあります。

また、貧しさ・モラル・自尊心などのレベルは身分（カースト）に比例する傾向があります。教育をきちんと受けず親の言うまま結婚させられたが、貧しさに耐えられず子供と家を捨てる親も少なくありません。また、以前は何とか自給自足で学校へ通っていた子供も、親の事故や病気、失踪などがきっかけで、勉強を続けられなくなった子供たちもいます。そういう子供たちがまた親になったときに、こういった「負の連鎖」が続いてしまうのを防ぐためにも、通学をサポートすれば、モラルも向上し、責任のある大人が増え、村全体

の豊かさというものを初めて考えられるようになると信じています。

交流倶楽部はこの基金を通して、教育を受けることから生まれる“経済的な豊かさ”だけでなく、“精神的な豊かさ”にもプラスとなる支援を今後も目指していくつもりです。現在のネパールの農村部では“豊かさ”に出会っていない大人が多数おり、教育の必要性が本当に分かっていないのが現状です。

### 3 今後の交流倶楽部、及び

#### フューチャーフラワー基金の事業計画

##### ア) ツアー参加者、および倶楽部会員の増加

今後もフューチャーフラワー基金の母体である、日本・ネパール文化交流倶楽部の活動を継続するために定期的にツアーやイベントを開催し会員も増やしていく必要があります。

ネパール旅行や留学生との交流への興味から始まり、実際現地を旅し、ネパールとの交流をもっと深める為に里子の支援を始められたメンバーもいます。” Give and Give” の精神に出会う初

めての入り口として、私共は交流ツアーをなるべく年2回のペースで行っていきたいと考えています。

#### イ) ツアーでの里子との対面に際しての課題

道路などのインフラが整わないダディン群の農村に住む子供たちと、ツアーに参加した里親のメンバーをいかに対面させるかということが課題になっています。子供が住む村まで歩いて行くには時間と体力を消耗し、車で行ったとしても片道6時間はかかるので一泊する施設が無いなどの理由で、今までは里親のメンバーがネパールを訪問した際、子供(2名)を首都カトマンドゥまで呼び寄せメンバーの滞在ホテルで対面させました。また、複数の里親メンバーがツアーに参加した時は、ダディン郡の入り口まで車で向かい、子供たち(付き添い含め9名)は村から片道徒歩3時間かけて来てくれました。そこで2時間程のピクニックで時間を過しました。

いずれの方法でも、メンバーはやっと慣れた頃にお別れの時間となり、もう少し子供と遊びたかったそうです。そして呼ばれず村に残った子供達は、こういった日本の里親が自分のことも支援してくれているはずなのになぜ呼ばれなかったのか寂しく思ったそうです。

アシスタントの鈴木がマイディ村での2週間で実感したのですが、たとえ自分の里親でなくとも日本からサポートしてくれている誰かしらに出会うという経験は、まだ幼く教育も始まったばかりの子供達にとっては何事にも変えがたいものです。ですので、私共はなんとかネパールを訪れるメンバーには子供や農村の人々の生活＝「本当のネパール」を体験していただけるよう設備を整える必要性を感じました。

#### ウ) “交流の家(仮)”建設プロジェクト(「仙台経済界」掲載記事参照)

“交流の家”とは、日本のメンバーと里子たちの「交流の拠点」です。子供達や家族が無理なく

日本人と会える場所をダディン郡に建設します。日常や都会の喧騒から離れ、時間、交通の不便、設備の乏しさ等に縛られることなく、田舎ならではの良さを存分に楽しめる場所にしたいと考えています。現地に一泊でも滞在することで村人の生活を無理なく体験し、理解し、楽しめる空間一まさに交流倶楽部の目的である【交流】、【支援】、【理解】を村人と共に実践する拠点です。

また、長期滞在しながら日本の技術や知恵を農村の生活向上に役立てる「技術支援」や、なんらかの職業訓練により自立の為に一緒に現金収入の方法を考える拠点になると考えております。

村では女性は家庭にとどまり、学生たちは仕事が無ければ危険で不安定な出稼ぎ労働者というのが当たり前ですが、少しでも「交流の家」の交流支援活動により、自分の家族だけではなく村の為に働こうという女性や若者の意識も生まれるのではないかと考えています。

報告は以上となりますが、ご質問・ご不明な点がございましたらお気軽に事務局までご連絡ください。これからもご指導とご支援、心よりお願い申し上げます。

2011年12月7日  
日本・ネパール文化交流倶楽部  
代表 サンジブ・アリアル  
アシスタント 鈴木涼子